

第3回多様な教育熟議in東京

どうしたら
私たちが問題だと感じていることは
解決できるだろうか

2010年1月29日

18時～20時

主催：EFC/おるたネット

熟議とは

- 「熟議」：多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと。

政策を形成する際、

- ①多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって、
- ②課題について学習・熟慮し、討議をすることにより、
- ③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
- ④解決策が洗練され、
- ⑤個々人が納得して自分の役割を果たすようになる、
というプロセスのことを言う。

WEBサイト「熟議カケアイ」より

熟議の効果

◎熟議の効果 1 : 行政改革

◎熟議の効果 2 : 新しい教育文化の創造

WEBサイト「熟議カケアイ」より

多様な教育熟議とは

日本の教育の未来について

「熟慮して討議する」場です。

教育に関わりのある人みんなで話をすることで、

「自分たちにできること」を考えていこう。

という場になります。

教育に関わる人たちが、教育の未来のために繋がり、

日本の教育文化が、

実際に形成されていくことも目指します。

前回の熟議からうまれた問い。

・ **学校との繋がり**

それぞれの立場の人が「自分事」に
なるには。

どうしたら対等な対話ができるのか。

どうしたら学校に関われるのか。

前回の熟議からうまれた問い。

- **学校という場の環境づくり**

「ひらかれた学校」を

つくるにはどうしたらいいのか。

学校は癒しの場となっているのだろうか

学校が「型」にはまらないためには？

前回の熟議からうまれた問い。

・ **制度の問題**

オルタナティブ教育の法的認可を
得るためには。
教育についての「評価」はどうあるべきか。
学習指導要領は妥当なのかどうか。

前回の熟議からうまれた問い。

- ・ **教育内容、教育のあり方**

教育に携わる者が「学び続ける」

必要性について

学校における特別支援教育とは

家庭教育での具体的な改善方法

身体づくりのリテラシーについて

前々回の熟議からうまれた問い。

A:学校との繋がり

B:学校という場の環境づくり

C:制度の問題

D:教育内容、教育のあり方

A: 学校との繋がり

ニーズが合っていない。仕組みがなっていない。

地域と学校がお互いに理解して歩み寄っていかねばならない。

意識を変える→コミュニケーション

まずは学校内が繋がらないと。→無理。

熟議にひとりずつ繋げる。EFCに誰かを入れる。

B: 学校という場の環境づくり

先生方の意識改革が必要。→そもそも先生だけ??

校長、先生、生徒、保護者、OBOG、NPO,行政、などのそれぞれの繋がりが必要。

まずは、この5人が繋がろう。

お互いに現場を見に行こう。熟議を学校でやろう。

C:制度の問題

学力問題。大学入試。学校を自由につくる権利。
すでに申告中。ブログや新聞のコラムを活用する。
奈良市の教育委員会に直接提案書を出す準備。
リヒテルズ直子氏の大学入試に関する話を広める。

D:教育内容・教育のあり方

サラマンカ宣言。多様な教育を保障する。
論文完成。原稿を書く。教育現場で学生に個別のサ
ポート。親御さんを巻き込んでいく。

前回の熟議から見えた 多様な教育の必要性

1 : 学校教育・家庭教育・社会教育の在り方

2 : 教育方法の多様化

3 : それらの実現のための制度改革

■学校教育

学校で行われる教授言語による教育。

公教育と密接な関係がある。

公教育とは国家や地方自治体など公的機関が行う教育のことで、学校を通じて行われる。

■家庭教育

親がその子に家庭内で、言葉や生活習慣、コミュニケーションなど生きていく上で必要なライフスキル（生きていくうえでの技術）を身につける援助をしてやること。

■社会教育

社会において行われる教育のこと。

社会教育は、政策において学校教育や家庭教育に対比される場合もある一方、学問において学校も家庭も社会の一部であるして総合的な教育の概念とされる場合もある。

学校教育を含まない。（生涯教育、は学校教育を含む）

■教育方法の多様化

現在の教育問題

→不登校、気になる子、ニーズの増加

子どもひとりひとりに合った教育が

求められる時代

例) プロジェクトベース学習、学び合い、
学びの共同体、シュタイナー、モンテッソーリ、
ダルトン、イエナプラン、フレネ、
ホームスクール、七田式、横峯式

■制度改革

学校設立の自由化

→特区を利用する、法の一部改正

学習指導要領の緩和

子どもの権利条約の浸透

熟議テーマ1

**私達を感じている問題は
そもそも
多様な教育を活用して
解決されるのだろうか。
されるとしたらどんな問題が解決できる？**

休憩 5分

熟議テーマ2

**多様な教育を活用して
解決される問題について
私たちは具体的に
何ができるだろうか**

問題・コミュニケーションの不足、学習意識の低下、居場所がない、英語の授業がつまらない・・・などなど

→外国語の時間を楽しくするために、20項目の楽しい活動をつくる

→校種、地域を越えて熟議をしていく

→テストをなくそう、大学受験がなくなればいい。→評価基準を考えていき、ボトムアップで

→やさしさの形はたくさんある！

問題・学校現場は忙しい。学級崩壊。不安や恐怖にかられている保護者。

→校務分掌。私塾。10分間生徒と向き合う時間をつくる。外部の良い事例を紹介していく。大学生などとの交流の場をつくる

→研究会の改善。どれだけ教員が主体的に関われるか。

問題・学校の教育内容が多様じゃない。多様さを活かせてない。コミュニケーションが足りず、繋がり自体を恐れている、心理的・人的な壁がある。

→教育にリアルさを。子ども達が社会に出た時に、失敗も突破できるような力をつけられる教育をしたい。→そのためには大人自体が学校の外の人たちとも関わることから学ぶ。→失敗から学ぶことができるように大人が変化。

→多様な土壌から学ぶことはとても楽しい。とても素敵なことだ。ということをそれぞれの立場から伝えていくこと。発信。

今回だけでなく、
あきらめずにやり続けることが
成長になるのだと思います。
学校は学ぶ組織です。
それを自ら具現することが
子どもにとっても
教育になることでしょう。

とある中学校校長からのメールより

今後の予定

第4回 アクションとまとめ（2月）